

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

前年度学校関係者評価の主な内容 ○児童生徒実態に基づくマネジメントサイクル ○課題発見解決型の授業改善 ○学力向上への指導工夫改善 ○共感的人間関係の構築、自己肯定感の高揚 ○開かれた学校とわかりやすい発信	児童生徒の現状 ○子ども主体の学びづくりの中で、主体性が育ちつつある ○小中共通の取組で、中学校生活へ円滑に移行できている ●不登校傾向にある児童生徒数の割合が高い ●家庭での学習習慣をより主体的にする必要がある	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	スキル・・・ A【知識・技能】 B【思考力・判断力・表現力】 倫理観・・・ C【協調性】 D【思いやり】 ふるさとを愛し、地域の中で、伸びやかにたくましく成長している 1 校区合同で実施する授業研究 2 生徒会、児童会による「いじめSTOP 集会」や「あいさつ運動」の実施 3 校区校長会、校区教頭会、校区各主任会等を通しての連携
--	--	---	--

III 自 校	ミッション すすんで学び、自ら伸びようとする子どもの育成 ～知・徳・体のバランスのとれた教育をめざして～ 学校教育目標 主体的に学び 仲間とともに 未来に生きる力を育む 現 状 ＜家庭・地域＞ ○保護者の教育的関心が高く、家庭での支援・協力が得られる児童の割合が高い。 ●地域事情により絶対的な運動量が不足しがちで、体力がつきにくい。 ＜児童＞ ○教師や友達の話を聞こうとする姿勢があり、出された課題に真面目に取り組むことができる。 ○様々な行事や活動を自分たちの力で企画・実行することに喜びを感じ始めている。 ●友達と意見の食い違いがあっても、議論を避けて妥協する傾向が強い。 ＜授業＞ ○教師と児童で課題の共有がしやすく、授業展開も概ね進めることができる。 ●児童が知的な好奇心や意欲を発揮して自ら「問い」を見つけ、協働して解決していく学びを創り、児童が「学ぶことが面白い」と実感できる授業づくりが必要である。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 テーマ 研究 めざす授業の姿	スキル・・・ A【知識・技能】 B【思考力・判断力・表現力】 倫理観・・・ C【協調性】 D【思いやり】 A 自分で決めたことを最後までやり通すことができる B お互いの考えを聴き合い、思いを伝え合うことができる D 相手の立場に立って、友だちの気持ちを考えることができる A 日々の学習や生活の中で課題を見つけ、解決しようと努力することができる B 他者の考えを聴き、様々な気づきを持ち、自分の考えと比べながら表現できる D 友だちの気持ちや周囲の思いを考えた言動ができる A 調べたことから新たな課題を設定し、解決に向けての情報収集ができる B 他者の考えの意図を感じながら聴き、自分の考えを深め、その変化を表現することができる D 相手や場に応じて適切な言動ができるとともに、今何をすべきかを周囲に提案できる 知的な好奇心・意欲を発揮しながら自ら学びをデザインする子どもの育成 ○体育科・社会科の授業づくりを通してテーマに迫っていく ・児童が自分の課題に気づき、自分たちで決めた方法で試行錯誤しながら協働して解決する＜体育科＞ ・地域素材を再評価し、総合的な学習の時間と横断させながら児童とともに学習を創る＜社会科＞ ・児童が知的な好奇心や意欲を発揮して、自ら「問い」を見つけ、様々な方法で探求していく授業 ・児童が一人一人自らの課題に気づき、目標を決め、振り返りをしながら自己を高めていくことができる授業 ・教師は、児童が自ら学べるように環境をつくり、学びを支えている授業
---------	--	--	---

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 東 小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	自ら考え学ぶ 授業の推進	★	見 直 し	児童が知的好奇心 や意欲を発揮し て、自ら「問い」 を見つけ、様々な 方法で探求してい く授業を実践する	・「学び デザ イン」をキーワ ードに、児童が 学んでいる姿 から授業を検 証する	児童アンケート 「学ぶことがおもしろい」 85%以上	研究授業を7回(講 師招聘授業2回)行 い、児童の学びの姿 から授業を検証し た。児童アンケート 「学ぶことがおもしろい」94.8%	4	3	「何のために」 「どんなこと」を 学ぶのかを児童 と共有し、「問い」 や「課題」を児童 とともに創る。 個に応じた宿題 に取り組む。	全担任が研究授業を行 い、「問い」によって児 童がどのような学びの 姿になったか検証しな がら授業づくりに取り 組んだ。 児童アンケート「学ぶ ことがおもしろい」94.7%	4	3	4	今後も「問い」にこ だわると共に単元 計画作成の際に学 習のゴールを明確 にすることで、児 童が知的好奇心を 発揮して授業に臨 めるようにする。
5	子ども主体の 健康・体力づ くりの推進		見 直 し	児童が自分の健康 や体力づくりの課 題に気づき、自己 目標を決めて、取 り組んだり振り返 ったりすることが できる	・体育科の中で 自己の課題に 気づかせ、自分 に合った解決 方法に取り組 む	児童アンケート 「自分で決めた方 法で取り組んで いる」 80%以上	自分で練習方法を 「選ぶ、決める、振 り返る」の場面を体 育科の中で特に重点 的に取り組んだ。児 童アンケート「自分 で解決方法を工夫し た」90.8%	4	3	今後も体育科を 中心に自分の課 題に気づかせる 仕掛けを行い、自 己目標を意識さ せながら健康、体 力づくりに取り 組ませる。	児童会発信によるコロ ナ禍での学校の過 ごし方や体育委員 会による10分 ストレッチの考 案など、 児童主体で体力づくりに 取り組んだ。児童アン ケート「自分で解決方法 を工夫した」88%	4	3	3	振り返りを充実さ せ、自己認識や自 己の課題に向き合 い、解決方法を工 夫できるような体 育科の授業づくり を続けていく。
2	能動的・革新 的な教育の 質の向上		見 直 し	教育の質の向上 の視点で業務改 善を進める	・定時退校の確 実な実施 ・行事や研修等 を計画的に行 い業務の見通 しを持つ	勤務時間外在校 時間45時間以上 の教職員0人	児童の情報共有や分掌ご との提示事項、活動後の振 り返りアンケート、保護者 からの連絡等をタブレッ トを活用することで、業務 作業の時間短縮、負担軽減 を図った。 勤務時間外在校時間 45 時間以上0人。	3	3	「子ども主体の 学び」「働き方改 革」の二つの視点 で、端末の活用を 効果的に行い業 務改善を推進し ていく。	学習端末を活用すること で、特別欠席の児童への学 びの保障をするともに、 欠席時の授業内容や宿題の 提示なども行い、担任の時 間短縮、負担軽減につなが った。勤務時間外在校時間 45時間以上0人。	3	3	3	「子ども主体の学 び」「働き方改革」に おいて効果的だった 端末の活用方法の情 報を共有し、全職員 が活用できるように 研修しながら進めて いく。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。